

名所江戸百景 深川萬年橋

かわさく No.68

CONTENTS

開催案内：令和2年度特別展「楽しい美味しい江戸の水辺」	2
開催案内：スロープ展「ブータンってどんな国？」	4
第1展示室 新しい展示コーナーのご案内	4
再開に向けて～交流員の取り組み～	5
学芸員コラム「お散歩中に探してみよう！雨水のゆくえ」	5
学芸員コラム「お散歩中に探してみよう！坂道のふしぎ」	6
学芸員コラム「お散歩中に観察できる街の生きもの」	6
学芸員コラム「おうちで作ろう！海藻標本」	7
イベント情報コーナー8・9・10・11月	8



開催案内

令和2年度特別展 「楽しい美味しい江戸の水辺」

開催期間: 令和2年7月11日(土)～9月6日(日)
会場: 本館第2展示室・リバーホール

川の博物館には、川や水辺に関わる美術資料も収蔵されています。本展示では、このうち江戸時代以降の浮世絵や図絵、図譜を展示します。

これらの資料には、水辺の自然や人との関わりが描かれています。描かれた自然や人々の暮らしには、花見や鮎漁など現在まで変化しながら引き継がれているものもあれば、放生会などあまり見られなくなったものもあります。

本展示では、歌川広重の浮世絵「名所江戸百景」を中心に、そこに描かれた四季折々の自然や人との関わりとその変遷を紹介します。資料は、浮世絵等の美術資料16点 動植物標本・レプリカ54点 その他17点 計87点を展示します。

巨大な浮世絵と一緒に写真を撮れる撮影コーナーもあります。

展示構成

■春の部（桜、桜草）

「名所江戸百景 隅田川水神の森真崎」から桜を取り上げます。荒川堤由来とされる桜の亚克力包埋標本や、隅田川での花見の様子が描かれた浮世絵、江戸時代の料理本「料理早指南」を基に作成した花見の重詰めのレプリカを展示します。

「江戸名所花暦」からは尾久の原（現東京都荒川区）の桜草を取り上げます。現在も荒川流域に残る特別天然記念物の田島ヶ原桜草自生地（さいたま市）を紹介します。江戸時代に流行した桜草栽培にも触れ、鑑賞法の1つである桜草花壇（桜草は画像）を展示します。



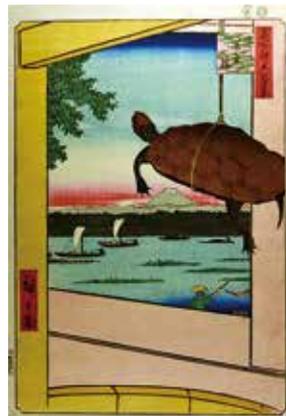
左: 名所江戸百景
隅田川水神の森真崎
上: 花見の重詰め



■夏の部（放生会、鯉漁）

「名所江戸百景 深川萬年橋」には、放生会のために手桶に吊るされた亀が描かれています。放生会に関連して、外来種を含めた埼玉県に生息する亀の現状を、標本と写真で紹介します。

「名所江戸百景 利根川ばらばら松」からは、投網による鯉漁を取り上げます。荒川下流域で行われていた投網漁を写真と実物資料で、鯉の料理をレプリカで紹介します。



左: 名所江戸百景
深川萬年橋
上: 船からの投網



■ 秋の部 (鮎漁、紅葉)

「名所雪月花 多満川秋の月あゆ漁の図」から鮎漁を取り上げます。荒川で行われた鮎漁（鶉飼、築漁、瀬張網漁、ガラ引き漁）の実物資料8点と写真4点、鮎料理のレプリカを展示します。

「東都三十六景 瀧の川紅葉」からは紅葉狩りを取り上げます。野生のカエデを標本で、栽培品種のカエデを写真で紹介します。



上：名所雪月花
多満川秋の月
あゆ漁の図
左：モジリ

■ 冬の部 (江戸の肉食、焼き芋)

「名所江戸百景 びくにはし雪中」には、猪肉を示す「山くじら」と、焼き芋を示す「〇やき」の看板が描かれています。そこから江戸時代に禁忌とされていた肉食と焼き芋を取り上げます。肉食料理をレプリカで、県内でのさつま芋栽培の歴史をパネルで、それを支えた三富地域（現所沢市・三芳町）の開拓史を「文久三年上富村地割絵図（画像）」で紹介します。



左：名所江戸百景
びくにはし雪中
上：焼き芋屋看板
(川越市立博物館所蔵)

関連イベント情報

投網にふれてみよう

日 時：7月23日（木・祝）
11：00～15：00

内 容：浮世絵に描かれている投網を、実際に打つ体験をします。

定 員：随時受付（当日参加型）

会 場：川の博物館 ファミリー広場

参加費：無料

展示解説

日 時：7月11日（土）、7月26日（日）
8月9日（日）、8月15日（土）
①11：00～ ②13：30～
（各回30分程度）

内 容：特別展の展示解説を行います。

場 所：川の博物館 第2展示室

定 員：各回10名程度（当日参加型）

参加費：無料

落語で楽しむ江戸の暮らし

日 時：8月23日（日）
①11：00～ ②13：00～
（各回40分程度）

内 容：江戸の暮らしを落語で紹介します。午前
は落語の所作体験もできる子供向け、午
後は一般向けです。

出 演：入船亭扇蔵

定 員：各回40名
（要事前申込み）

場 所：川の博物館
ふれあいホール

参加費：無料



入船亭扇蔵

(研究交流部 三瓶ゆりか)



開催案内

スロープ展 ブータンってどんな国？

開催期間：6月23日(火)～9月13日(日)

ブータンという国をご存じでしょうか。2006年に即位し、2011年の秋に王妃と震災後の日本を訪れ、その真摯な言葉やふるまいが話題になった国王のことを記憶している方もいらっしゃるかもしれません。ブータン王国は面積が九州よりもやや小さいながら、国民総生産（GNP）より国民総幸福（GNH）という考え方を提唱するなど、国際的に存在感のある国と言えます。

そのブータンと、川の博物館のあるここ寄居町は、ブータンオリンピックチーム（陸上）のホストタウンとして、2016年から交流事業を進めています。そこで当館では第1展示室のスロープにてブータンを紹介するパネル展示を行うことになりました。

ブータンの特徴は何といてもその立地にあるでしょう。インド平原に接する南側は標高150m、チベット高原に接する北側は標高7,000mを超え、国土の7割以上が山地です。低緯度でありながら標高が高いため、亜熱帯から寒帯の気候を含みます。このような自然環境は多様な動植物を生み出し、また人々の生活にも多大な影響を与えています。

展示では、ブータンで作られる織物やその製品、ブータンのお茶や食べ物、標高によって様式の異なる家、農村の様子、動植物について、主に写真で紹介します。また寄居町とブータンとの交流事業についても紹介します。

(研究交流部 森圭子)



ブータンの国花、ブルーポピー



バロに広がる水田（10月）

第1展示室 新しい展示コーナーのご案内

当館の第1展示室には「荒川の祭り」のコーナーがあり、荒川の祭りと行事について、季節に合わせて展示していました。しかし開館当時の展示物に傷みも出てきたことから、このコーナーを改め、当館の収蔵資料を定期的に入れ替えて展示する新しいコーナーに作り替えることになりました。幅5メートルほどの展示ケースとともに、第1展示室の多言語解説（英・中・韓）や荒川の情報などを見ることのできるモニターが設置され、今年度からご覧いただけるようになりました。

展示ケースのトップバッターとして、夏の特別展に関する収蔵資料である歌川広重の「名所江戸百

景」を展示していました。7月半ばからは「都幾川の生き物たち」を展示しています。これからもぜひ時折のぞいてみてください。 (研究交流部 森圭子)



新しく設置された展示ケース



再開に向けて～交流員の取り組み～

本館リバーホールの天井には色とりどりの鶴が飾られています。その数、5,670（コロナゼロ）羽です。

新型コロナウイルスの影響で、休館を余儀なくされ、その間に何かできないかと試行錯誤していたところ、あるスタッフから「折り紙で鶴を折って飾ってみませんか？」との提案がありました。せっかくなら意味ある数字にしたいと考え、5,670（コロナゼロ）羽まで鶴を折りました。17本の紐を使用して吊るされた5,670羽の鶴が舞う姿は圧巻で、お客様に見えていただける日が来ないものかと開館が待ち遠しかったです。

また、この休館中にワークショップの模様替えも行いました。ワークショップ内にある「荒川の石」コーナーでは石のアートや砂絵もスタッフが作成から展示まで行っています。ぜひ覗いてみてください。

また本館外では、「アニマルビンゴ」も実施しています。こちらも、お子様が外で遊べるものを！

ということで、スタッフが考案から作成まで行いました。作成にあたり、スタッフが動物の足跡を忠実に木の板にペンキで描きました。広い敷地内で全部みつけるのは大変かもしれませんが、子どもたちは外を駆け回り、楽しんでいるようです。

今後も、制限された中でも楽しんでいただけるようにスタッフ一同取り組んで参ります。



ワークショップ内展示ケース

（交流員リーダー 神保敏子）

学芸員コラム お散歩中に探してみよう！ 雨水のゆくえ

みなさんは街に降った雨水が、どこへ行くのか考えたことはありますか？

最終的には雨水は河川へと流れていくのですが、河川より低い土地に集まった雨水は、ポンプ場で汲み上げられてから河川へと放流されます。また、地域によっては下水処理場に雨水も集められます。

実は、このポンプ場ではたくさんの機械が働いていることをみなさんはご存じですか？

雨水がポンプで汲み上げられる際は、ごみや流木などが詰まってポンプが壊れないように除塵機やスクリーンと言われるごみを取り除く機械を通します。ちなみに除塵機はベルトコンベア式になっており、引っかけたごみはコンベアによってごみ捨て場まで自動で運ばれていきます。

また、ポンプにもサイズがあります。ポンプの配管だけで大きいものはなんと直径が2メートル以上もあり、大人の身長よりも大きいのです。ちなみに家蛇口の口径は直径約2センチメートルほどが多いです。ポンプで汲み上げられた水は、

水門を通って河川へと放流されるのですが、大雨時は河川へと放流しないよう水門を閉めることもあります。水門も手動で開けるタイプがありますが、大雨の中を川の近くにある水門まで行くのは危ない場合もあるので、遠隔で開閉操作が出来る水門もあります。

このように雨水を処理するだけでもごみを取り除く除塵機や水を汲み上げるポンプ、水門など様々な機械や設備を利用しているのです。



写真はベルトコンベアです。運ばれたごみは、そのままトラックの荷台に落として回収出来ます。

（研究交流員部 室井美穂）



学芸員コラム

お散歩中に探してみよう！ 坂道のふしぎ

写真①を見てください。この写真は、当館の裏にある急な坂道です。当館に来館されたことがある方はご存じかと思いますが、車で来館されても、歩いて来館されても、必ず急な坂道を下りないと当館にたどりつくことができません。

皆さんがお住まいの地域にも坂道があるかもしれません、それら坂道はなぜあるのか考えてみたことはありますか？ それら坂道があるのにはちゃんと理由があるのです。

先ほど紹介した当館裏の坂道の場合はどうでしょう。この坂道は、当館周辺の地形が大きく関係してきます。当館の周辺には、河岸段丘という、川と関係の深い地形が見られます。河岸段丘は、平らな面（段丘面）と、崖の部分（段丘崖）から構成されます。当館の裏にも高低差約10mの崖がありますが、これが段丘崖にあたります。そしてこの段丘崖を一気に上り下りしないとイケないのでは先程紹介したような急な坂道が登場するのです。

今度は写真②を見てください。これは川越市内の新興住宅地内の坂道です。台地上の平らな土地に区画整理された住宅地内になぜこのような坂道があるのでしょうか？ これもこの住宅地が整備された場所の地形が大きく関係します。実は一見平らに見えるこの地域も、この周辺だけは浅い谷になっているため、坂道が登場するのです。

今回紹介したように、坂道がある場所には、その坂道ができた理由が存在しています。それは決して地形的な問題というだけでなく、その街の誕生の経緯等が関係してくる場合もあります。皆さんも散歩の途中で坂道に遭遇したら、どうしてその坂道があるのか考えてみませんか？ 地元の地形や歴史について知るきっかけになるかもしれません。



写真①：当館裏の急な坂道



写真②：新興住宅地内の坂道

(研究交流部 羽田武朗)

学芸員コラム

お散歩中に観察できる街の生きもの

今年の春は会社や学校の休みが長く続き、身近な散歩コースを開拓した方も多かったのではないのでしょうか。そこでみられる身近な爬虫類に注目しました。静かな散歩道でカサカサッと草や落ち葉の音を聞いたことはありませんか？ ニホンカナヘビが、人の気配を感じてさっと逃げた音かもしれません。名はヘビですがトカゲのなかまで、身近に観察できる爬虫類として子どもたちにもおなじみです。主に草むらを生活の場としますが、人の手の入った環境でもよく見られます。公園・緑地、民家の植え込み、畑、花壇など、日当たりがよく、緑が多い環境であれば都市部でも見られます。やや自然度が高い環境に生息するヒガシニホント

カゲはやや太く艶がある体つきですが、ニホンカナヘビはスリムで艶が無くカサカサした体つきです。よく見ると小さな恐竜のようで、とても魅力的です。



ニホンカナヘビ

(研究交流部 藤田宏之)



学芸員コラム

おうちでつくろう！海藻標本

普段食べている海藻が、どんな形の生き物か知っていますか？ スーパーで売られている海藻を、標本にして形や色を見てみましょう。

道具は、画用紙、竹串、白い器、新聞紙、不織布（三角コーナーのごみ袋等）を用意しましょう。おすすめの材料は、海苔ともずく。海苔は、原材料に「干しのり」「乾のり」などと書いてあるものがおすすめです。紙状のすき海苔でもいいのですが、「ばらのり」「岩のり」など塊状の方が、標本にしたときに本来の海苔の形がわかりやすいでしょう。

海苔を例に作り方を説明します。まずは、白い器に海苔を入れて、水でもどします。数分して水の中で広がった海苔の下に、画用紙をすべり込ませます。海苔を竹串で押さえながら、画用紙と一緒に水から引き上げます。紙の上ののった海苔を竹串でつついて、重なったり折れ曲がったりしたところを広げて整えます。形が決まったら、水をよく切って、不織布をかぶせた後、新聞紙に挟みます。上に辞書などの重しをのせて、乾いたら完成です。

海苔は、アマノリの仲間です。分類は難しいですが、地域によって材料とされるアマノリの種類は様々です。アマノリの仲間は本来、赤い色素をもつ海藻で、水でもどすと真っ黒ではないことがわかります。一方、焼き海苔では焼いたことにより赤い色素が壊れて緑色になっています。また、抄き海苔は作る工程で刻んでいるので、細切れになっています。その違いを比べてみるのもおもしろいでしょう。

もずくを使う場合は、カップ入りのもずく酢でも十分です。水に入れて画用紙にのせましょう。一般的なのは、沖縄県で養殖されているオキナワモズクですが、「岩もずく」「細もずく」などの名称で売られているモズクもあります。

海藻サラダを材料にするのもいいでしょう。「赤〇〇」「青〇〇」と名前があり、形がそっくりな海藻が入っている場合があります。これは、熱処理などで色を変えているだけで、実は同じ海藻な

んです。

標本をつくり終わって残ったノリは、ざるで水を切り、醤油をつけてお刺身にして食べてしましましょう。食感の違いも楽しめます！



スーパーで買ってきた海藻



水でもどすと本来の色が見えてきます。左上は抄き海苔、右下は青さのり、他は黒のりやばらのりです。



できあがった海藻標本
(各地の海苔、青のり、海藻サラダのつものまた、もずくなど)

(研究交流部 三瓶ゆりか)

8月

7/11/土~9/6/日

特別展「楽しい美味しい江戸の水辺」

6/23/火~9/13/日

スロープ展「ブータンってどんな国?」

1/土

かわはくであそぼう・まなぼう
かわはく開館・水の日記念イベント

①大水車をまわそう

時間：9：00～ 定員：1組 ☎

内容：大水車の放水ボタンを押せます。

②似顔絵プレゼント

時間：①11：00～ ②11：40～ ③13：10～ ④13：50～
(各回30分程度)

定員：各回1組ずつ ☎

内容：似顔絵画家のうえあきむさんに似顔絵を描いてもらいます。

③ストーンペインティング

時間：①11：00～12：00 ②13：30～14：30

定員：随時4～6組ほど

内容：荒川の小石に絵を描く体験をします。

8/土

モノづくりを楽しみながら学ぶ「木のおもちゃづくり」

時間：11：00～15：00 定員：随時2組程度 費用：1,000円

内容：木のおもちゃを作ります。

9/日

モノづくりを楽しみながら学ぶ「うちわづくり」

時間：11：00～15：00 定員：随時2組程度 費用：500円

内容：オリジナルのうちわを作ります。

10/月・祝

モノづくりを楽しみながら学ぶ「木箱をつくろう」

時間：11：00～15：00 定員：随時2組程度 費用：1,000円

内容：西川材を使ったかわはくオリジナルおもちゃ箱を作ります。

16/日

かわはく研究室「田んぼの小さな生きもの」

時間：13：30～15：30

内容：田んぼをささえる小さな生きものを顕微鏡で観察します。

23/日

特別展開連イベント「落語で楽しむ江戸の暮らし」

時間：①(子供向け) 11：00～ ②(一般向け) 13：00～

定員：各回 40名 ☎

内容：江戸の暮らしを落語で紹介。午前は落語の所作を体験するなど子ども向き、午後は一般向きの落語会です。

9月

9/26/土~11/23/月・祝

秋期企画展「タカ・ハヤブサ・フクロウ～荒川流域の猛禽類～」

9/15/火~2021/2/7/日

スロープ展「日本のワシ・タカ・フクロウ」

5/土

かわはく体験教室「この実、なんの実?」

時間：13：30～15：30

内容：いろいろな植物の実を解剖して観察します。

13/日

かわはく研究室「川のはたらき・地形・歴史を学ぼう①」

時間：①10：00～11：00 ②11：00～12：00

③13：30～14：30 ④14：30～15：30

内容：学芸員と一緒にかわはく周辺の地形や川のはたらき、荒川の歴史等について学びます。

19/土

科学かい「かがく? いくがが!？」

時間：11：00～15：00

内容：荒川わくわくランドにある「流力」「浮力」「圧力」「抵抗」の4つの水の科学を、分かりやすく体験します。

22/火・祝

植物のしおりづくり

時間：13：30～15：30

内容：葉や花の押し花でしおりをつくります。

27/日

かわはくであそぼう・まなぼう「お月見クイズラリー」

時間：13：30～15：30

内容：お月見にまつわるクイズラリーをします。

(参加者にはお団子プレゼント?)

10月

4/日

荒川ゼミナール

川を知るウォーキング「都幾川を歩く」

時間：9：30～16：00 (予定)

費用：300円(資料代・保険料) 定員：20名 ☎

内容：荒川の支流、都幾川を歩く企画の第1弾として、高坂駅周辺を歩きます。

10/土

かわはく体験教室「アゲブネに乗ろう」

時間：13：30～15：00

内容：かつて荒川流域で使用されていた洪水避難・救援用小型船「アゲブネ」の試乗体験。

11/日

ロボットをつくろう 水陸両用車づくり

時間：①10：00～ ②11：30～

③13：30～ ④15：00～ (各回60分程度)

定員：各回15名(要事前申込み) 費用：1,200円

内容：水上でも陸上でも走る車を作ります。

18/日

かわはく研究室「土と砂のちがいは?」

時間：13：30～15：30

内容：土のはたらきを調べる実験をデモンストレーションで行います。

24/土

土を使って染めてみよう!

時間：13:30～15:30

費用：400円(材料費)

内容：ニセアカシアの花を使い、土を媒染剤にして布を染めます。

24/土・25/日・31/土

かわはくであそぼう・まなぼう「かわはくでハロウィン」

時間：10：00～16：00 ※材料がなくなり次第終了

内容：ハロウィンを楽しむイベントを館内各所で行います。

17/土~31/土

かわはくハロウィンウィーク

内容：期間中の土・日にハロウィンの仮装をして来館した方にはプレゼントがあります。

11月

3/火・祝

荒川ゼミナール「川を知るウォーキング

「入間川を歩く2」

時間：9：30～16：00 (予定)

費用：300円(資料代・保険料) 定員：20名 ☎

内容：入間川を歩く企画の第2弾として、三川合流地点を目指して歩きます。

7/土

かわはく体験教室「砂金探り教室」

時間：10：00～12：00

費用：200円(資料代・保険料) 定員：20名 ☎

内容：かつては砂金が採れた荒川で、砂金探りにチャレンジします。運が良ければ砂金が採れるかもしれません。

(雨天時は室内でパンニング体験)

14/土

かわはくであそぼう・まなぼう

かわはく秋祭り

①木の実あそび

時間：①10：00～12：00 ②13：00～15：00

内容：どんぐりゴマやどんぐりヤジロペづくりを体験します。

15/日

かわはく研究室「川のはたらき・地形・歴史を学ぼう②」

時間：①10：00～11：00 ②11：00～12：00

③13：30～14：30 ④14：30～15：30

内容：学芸員と一緒にかわはく周辺の地形や川のはたらき、荒川の歴史等について学びます。

22/日

障がい者ウィークイベント「人形劇」

時間：①11：30～ ②13：00～ (各回45分程度)

定員：各回15組(要事前申込み)

内容：障がい者ウィークイベントの一環として、人形劇を行います。

29/日

防災を学ぼう! 体験しよう!

時間：11：00～15：00 (予定)

内容：降雨体験車や水圧体験などを行います。

ホームページでも紹介しています!

<https://www.river-museum.jp>

【お願い】①イベントは諸事情により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日(午前中)までです。③定員になり次第締め切ります。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332
ホームページのフォームからお問い合わせいただけます。

彩の国
埼玉県

2020年7月31日発行

